

平成27年度 第1回 東京・神奈川地区4国立大学法人
公共工事入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成27年12月21日(月) 15:00~17:30 東京海洋大学 (品川)本部管理棟1階 第一会議室	
委員	委員長 林 静雄 (大学名誉教授) 委員 清水 幹裕 (弁護士) 委員 竹内 啓博 (公認会計士)	
審議対象期間	平成26年7月1日~平成27年6月30日	
抽出案件(合計)	6件	(備考) 資料7 審議案件一覧表に基づき、各大学の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
工事(小計)	4件	
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0件	
一般競争入札 (上記工事を除く)	3件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務(小計)	2件	
簡易公募型プロポーザル(拡大)	2件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

質 問	回 答
<p>②建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議について</p> <p>(1) 一般競争入札方式（実績評価型総合評価落札方式） 【お茶の水女子大学 人間文化棟改修電気設備工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 者応札になった原因は何か。 ・ 配置予定技術者がいないという理由であるが、改善策に施工実績の条件を緩和する方向で検討するとあるが、どのようなものか。 ・ 低入札に関しては、どのようにお考えか。 ・ 今後の積算に反映させるよう低減率の設定を検討するとあるが、どういう意味か。 ・ 低減率を事前に把握するのは難しいのではないか。 <p>(2) 一般競争入札 【東京海洋大学 (坂田) 発電機更新工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営状況に関して問題なしと判断した根拠は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施工実績または技術者が不足していたためである。 ・ 東京・千葉・埼玉・神奈川のほかに地域要件を拡大すると考えている。 ・ メーカー見積・専門業者の見積を採用したが、業者に確認したところ、信頼関係を持つ業者から調達が可能であるので、納入の際の実勢価格が安価になったことと、事業所から至近距離にあるため、管理費等の削減が可能となったためと思われる。 ・ 定価に対しての納入価格を調査して、低減率をかけて、納入価格に近い金額を設定することである。 ・ そのとおりである。 <p>・ 経営状況に関して、過去3年分の財務諸表を提出してもらい安全性に関して財務分析を行った。流動比率、当座比率、自己資本比率等を算出し、目安を定めてその数値以上であれば問題ないと判断した。</p>

質 問	回 答
<p>・目安の数値はどのように決めたのか。</p> <p>・財務諸表だけではなく、リスクを認識するために税務申告書を提出し、確認してもらった方がいいのではないか。</p> <p>3) 一般競争入札 【東京医科歯科大学M&Dタワー地下1階再生医療研究センター改修機械設備工事】</p> <p>・低入札価格調査の項目で「経営状況」と「信用状態」はどう違うのか。</p> <p>・共通仮設費と諸経費について差があるが、ダンピングではないのか。</p> <p>4) 随意契約 【横浜国立大学（常盤台）教育文化ホール大集会室等天井耐震他改修工事】</p> <p>・1回目の入札時において2者が辞退した理由は何か。</p> <p>・1回目の入札時の予定価格と2回目の入札時の予定価格を比較して予定価格が下がったのはどうしてか。</p> <p>・天井は張替たのか、それとも補強をしたのか。</p>	<p>・財務諸表上の安全性等を判断する目安をインターネット等を通して基準値を定めた。</p> <p>・今後、そのように検討する。</p> <p>・「経営状況」は、財務諸表から赤字がないかどうかの確認であり、「信用状態」は、工事成績評定等の確認である。</p> <p>・予定価格の積算は、文部科学省や公共工事の指針に沿って積算を行っており、業者の方は見積の区分で共通費に入れるようなものも直接工事費に入っていたり、一概に比較できない。また、自社で職人を確保しており、下請契約を結ぶ必要が無いので、経費が安価になっていることから、ダンピングをしていると考えにくい。</p> <p>・横浜市内の小中学校の夏休み中の耐震改修工事が重なっていて、时期的に配置予定技術者がいないため、辞退した。</p> <p>・工事対象建物が減ったからである。</p> <p>・天井は張り替えた。</p>

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・競争参加資格の設定欄で工事成績評定表の評定点合計の各年度の平均が2年連続60点未満でないこととはどういうことか。工事实績がないといけないという意味か？ ・国土交通省の特定天井の工事であるのか。認定を提出するのか。 ・今後の改善策として「参加条件を検討する」とはどういうことか。 ・なぜ群馬県なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事成績評定表の実績がないといけないという意味ではない。 ・認定は出していない。 ・基準を満たした天井としている。 ・東京都、神奈川県のほか千葉県・埼玉県・群馬県を追加し、地域要件を緩和する。 ・以前落札した業者が、東京都に支店があり、その業者の本店が群馬県であったため
<p>5) 簡易公募型プロポーザル方式 (拡大) 【横浜国立大学 (常盤台) 経済学部講義棟2号館改修その他設計業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設コンサルタント選定委員会に出席したのは代理ということだが実際の採点は委員の方が行ったのか。 ・採点は、委員の点数を平均するのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。 ・事前に採点したものを送付してもらっている。 ・はい、平均点方式である。
<p>6) 簡易公募型プロポーザル方式 【お茶の水女子大学グローバル・コミュニケーションプラザ新営 (建築) 設計業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採点するときには具体的な会社名はわからないようになっているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にはわからないようになっている。

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none">・採点をしたのは2名の委員か。特定するのは、相談をして決めるのか。 ・意見が違った時にはどうするのか。 ・有識者は委員なのか。 ・建設コンサルタント選定委員会の議事録は残っているのか。	<ul style="list-style-type: none">・施設課長と財務課長と有識者の3名である。 特定は合議で決めている。 ・これまで、大きな意見の違いはなかった。 ・規程上は委員ではない。 ・ある。